時之島城と日根野弘就

原　誠完 調

一宮市史によれば、尾張徇行記第四巻に「本郷ノ北二城墟アリ、北ハ川岸、三方は平地今ハ民居」とある。場所は時島神社の西隣に位置する一宮市時之島字本郷の高台で、文禄二年（１５９３年）頃には城があったらしい。

規模は東西１３０m、南北１４０m、北に三宅川（現在の時之島排水路）、東西に二重堀があった。今でも本郷の周囲には、西屋敷、中屋敷、南屋敷、上屋敷といった地名が残っているから、当時は家来の家屋があったものと思われる。

帝国博物学協会の尾張国・時之島城の資料には、日根野備中弘就が築城したと記載されている。

日根野家は和泉日根（今の大阪府泉佐野市日根野）を発祥地とする一族であるが、弘就の父の代に美濃斉藤氏に仕え、本田城主（※岐阜県瑞穂市本田）となり、美濃六宿老と呼ばれた。弘就は美濃に侵攻する織田信長の勢力と戦ったが、主の斉藤龍興が稲葉山城を退去し斉藤家が滅んだため浪々の身となってしまった。

やがて遠江国の今川氏真に仕えた。今川氏が滅亡すると近江の浅井氏に仕え、浅井氏の滅亡後、伊勢長島一向一揆に荷担したが信長軍に敗れた。この後敵対してきた信長に仕えることになり、武勇を買われて馬廻り役に取り立てられ安土に屋敷地を与えられている。

本能寺の変で信長が討死すると羽柴秀吉に与し、天正十二年（１５８４年）の小牧長久手の合戦では、二重堀砦を築いて多数の死者を出しながらも砦を守りきった。

天正十八年（１５９０年）には尾張と三河で一万六千石を与えられており、時之島城に居城した。秀吉の勘気に触れたこともあったらしい。豊臣秀次が文禄四年（１５９５年）

に秀吉に追放され自害すると、弘就は連座して浪人となった。

慶長七年（１６０２年)、出家して法印と名乗っていた弘就が死没すると時之島城は廃城となった。

現在明確な遺構は残されていない。民家の裏にある山神様の塚が唯一の遺構である。

※本田城（ほんでんじょう）

本田城と思われる場所は、現在、民家。見たところ北側の大半は雑木林で、周辺には城址らしい雰囲気が漂っている。

この城の魅力は、雑木林の北側から北西側にかけて残る水堀と東側にも見られる水路であろう。

戦国時代には猛将・日根野備中守弘就が住んでいたとも言われるのに、地元には伝承されていない。周辺住民に尋ねると、江戸期以降はこの水堀に囲まれた場所に庄屋が住んでいたという。

場所：岐阜県瑞穂市本田１４１２にある円融寺の東隣

朱鷺大好著「時之島城主　日根野弘就物語」より